

# TEEP

進化型実務家教員  
養成プログラム

VOL.39

NEWS LETTER

## TEEP修了生活躍のShowcase 4類型から見る実務家教員活用の可能性

昨年度より大学教員の公募情報が公開されているプラットフォーム「JREC-IN Portal」<sup>\*1</sup>にて、実務家教員の公募情報に特化した入り口が設けられました。これは、私たちTEEPを含む4つのコンソーシアムと各拠点の養成基準を共通化し、共同広報を担う運営拠点・東北大学からの要望がまった形です。また、専門職大学院、専門職大学、専門職学科の設置が増えてきており、これらは、産学官民連携による共同教育が求められていること、実務家教員の価値が評価されてのことであると理解しています。

本ニュースレターの狙いは、実務家教員の経験と力を教育現場でいかす方法を改めて提案することです。大学関係者には言わずもがなのことかもしれませんが、実務家教員を養成するTEEP流の主張とお考えいただければ幸いです。

そこで以下では、実務家教員としてのトレーニングを積み、大学教員としてのコンピテンシーを高めたTEEP修了生の活躍の4つの類型を明確にし、大学へは実務家教員の採用可能性を、企業・行政・非営利団体等へは従業者が実務家教員として活躍する可能性を示します。一方通行ではなく、双方にとり恩恵のある「キャリア開発」が実務家教員を目指すことでもたらされます。

<sup>\*1</sup> <https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekTop>



名古屋市立大学  
学長補佐  
大学院経済学研究科教授  
TEEP 実施委員長  
鵜飼 宏成

### 「教える」以上の効果持ち始めた学修プロセス

まず、TEEPの社会的役割と養成プログラムのコンセプトを改めてお示しします。TEEPとは大学と企業・NPO等が連携して持続的な共同教育を実現することを目的に、実務の最先端を大学で学生に教え、仕事

場においても実務の最新動向を若手ビジネスマン等に教える実務家教員の養成を出発点としています。加えて、実務家教員は大学に身を置きつつ、社会課題と向き合い、解決の担い手になるというアプローチで進めてきました。

その学修プロセスでは、基本コースで大学人としての基礎力やソーシャル・デザイン力を学び、多職種連携PBL (Project Based Learning) 演習で社会課題克服に向けた環境分析、参加者分析、教材開発、プロセスデザインを経験し、専門コースで実践経験の理論化・構造化をしてもらいます。そして、「実務領域診断カルテ」を用いながら、実務家教員としてのコンピテンシーの変化を追いつづけます。

こうした学修によって受講生より、学修課程に在籍する段階から、業務プロセスにおけるチームの生産性向上や、BtoB取引にいい影響が及んでいるといっ

学生は毎回アクションペーパーを書いて担当回の講師がチェック。さらに「私の『一皮むけた経験』の自己分析」と「10年先を目指したロールモデルと私の『キャリア開発シート』」をテーマに2種類の課題レポートを完成させ、5人の講師が成績評価します。

### 産官学の三者連携による共同講座も

もう1つの具体例として、名市大の共同講座を紹介します。

名市大経済学部と東海エリアのケーブルテレビ事業者11社を束ねる株式会社コミュニティネットワークセンター、そして岐阜県白川町は2023年3月に三者協定を締結しました。学生の育成と研究者の研究力強化、企業社員や行政職員の能力開発、そして地域の社会課題解決に寄与することを目的としています。

この協定を基に行われる共同講座は現実の地域課題を題材に「ソーシャル・アントレプレナー&アントレプレナー育成講座」として開講し、PBL型の能力開発によって新しい挑戦のできる人を社内外で育成します。

企業と町のスタッフと学生がチームを組成し、実

際の経営及び地域課題を基に解決アイデアを事業計画へとブラッシュアップ。産官学そして学生と社会人の垣根を越えて補完し合ってフィールドワークで検証し修正提案するのが講座の特色です。

企業は若手社員の派遣とDX技術を活用した課題解決策の検討と実施を、町は地域課題の設定と若手職員の派遣と実習の場を提供します。主なカリキュラムは15回の特別講座で地域課題とその発生の背景、企業戦略、課題解決策の検討をした後、集中講義として夏休み期間中に白川町でフィールドワークをします。

この企画はTEEP修了生の提案によって実現しました。従来の専任教員や非常勤講師だけでなく、修了生が活躍する出口の1つのあり方として共同講座があるということをお示しできる例です。

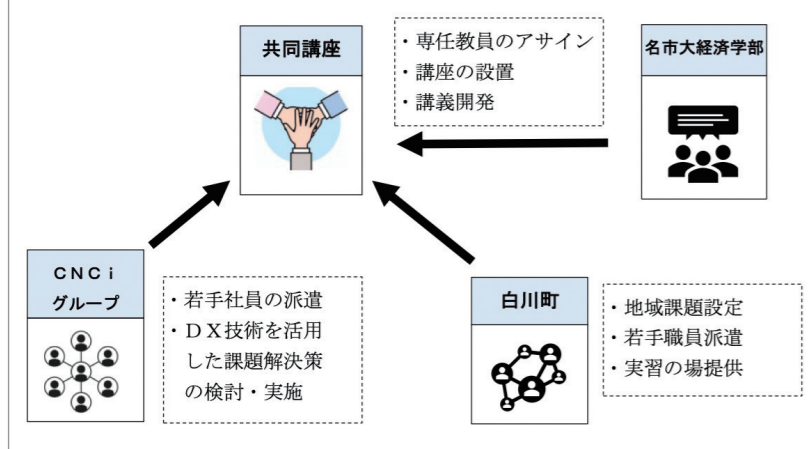
### 大学は当事者として実務家教員の有効活用を

こうした例を見て、他の大学や企業も実務家教員をもっと有効に活用できるのではないのでしょうか。キャリアデザイン実践編のような企画や共同講座などを誰かが作ってくれるのを待っていたら、いつまで経っても実現できません。だからこそ、まずは我々自身が当事者としてプログラムの開発と実施例を示し、ショーケースとしました。

高知工科大学の那須清吾教授によれば、実務家の経験を可能な限り伝達可能な経験知へ変換することは、「基礎理論を実務に応用すること」「より詳細な理論を追加すること」「実務から新たな理論を発見すること」です。

こうした考え方をヒントに、より意味ある仕事世界と高等教育機関の往還を実現するために欠かせない要件や、実務家による研究のあり方の理解と実践をTEEPでさらに突き詰めていきたいと考えています。

### 共同講座全体のイメージ



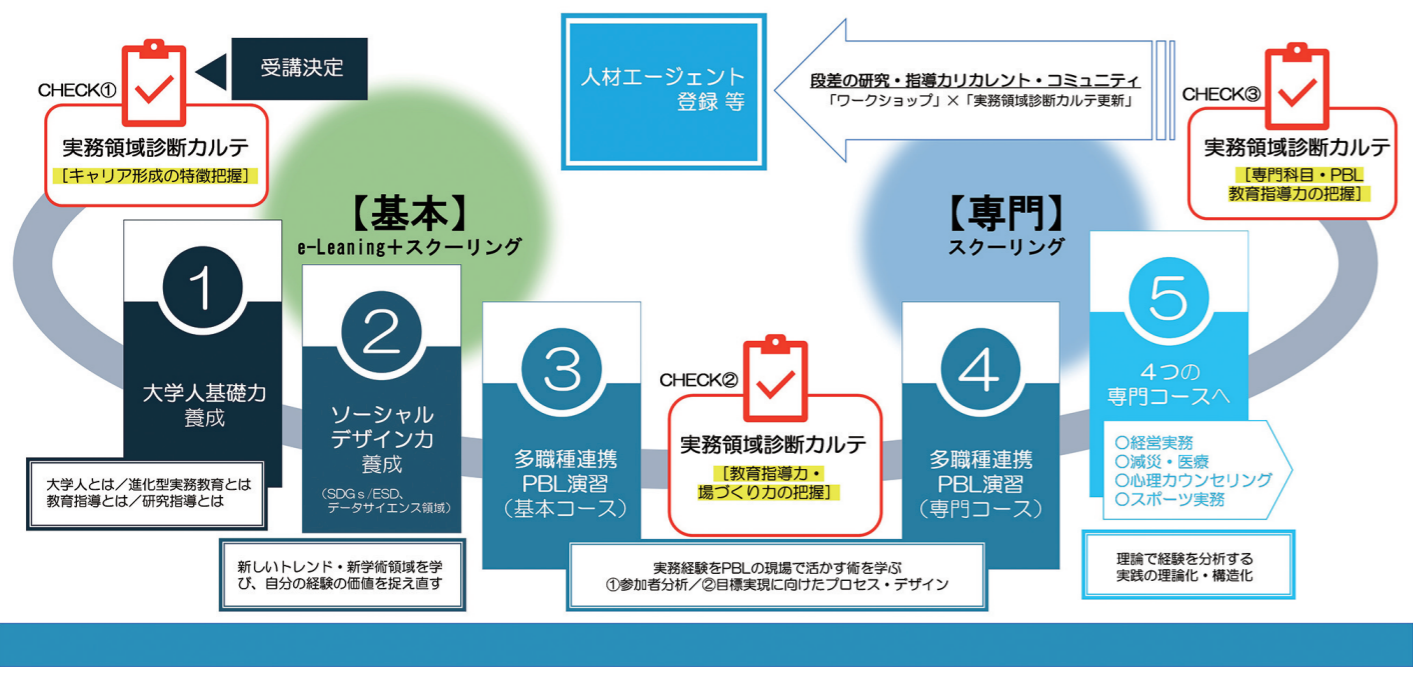
岐阜県白川町×名市大×株式会社コミュニティネットワークセンターによる共同講座

進化型実務家教員養成プログラム「専門コース」の受講募集を開始しました。スポーツ実務コースは5/29～6/16、減災・医療コースは6/8～6/21です。詳しくは以下のWebサイトにてご確認ください。

<https://teep-consortium.jp/>



## 進化型実務家教員養成プログラム 学修プロセス



た声も聞かれ始めました。我々が当初考えていた「教える」以上の効果を持ち始めているということだと思います。

### 専任教員から共同講座講師までの4類型

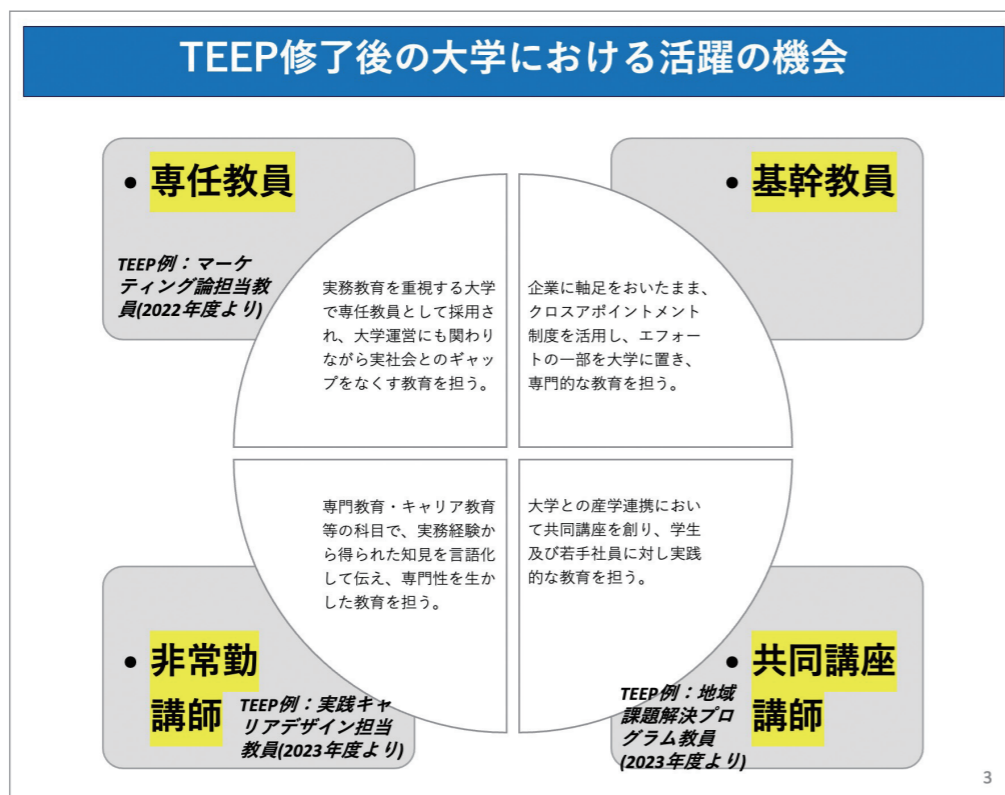
TEEPの修了生には、大きく分けて4つの活躍領域があります。専任教員、非常勤講師、基幹教員、共同講座講師です。

専任教員は、一般的な公募などによって正規の大学教員に採用された人たち。大学運営にも関わりながら実社会とのギャップをなくす教育を担います。

非常勤講師は専門教育・キャリア教育等の科目で、実務経験から得られた知見を言語化して伝え、専門性を生かした教育を担いま

す。あくまで科目担当者という位置付けであることが、大学における研究活動はもちろん、学生に対する生活面の指導、その他の学務や社会貢献などが求められる専任教員との違いといえます。

基幹教員は他機関（企業等）に軸足を置いたまま、



4つの活動領域

クロスアポイントメント制度を活用し、エフォートの一部を大学に置き、専門的な教育を担います。契約の仕方にもよりますが、一般に学務は免除された上で、教育研究や指導は正規の教員と同じ立場で行います。より専門性の高い教員を企業や他の大学から導入できる制度です。

共同講座講師は、大学との産学連携において共同講座をつくり、自らも講師を務めながら学生や若手社員に対し実践的な教育を担います。企業は人や資金を、大学も人や施設等を供給し、大学が持つ教育プログラムをより積極的に活用した学びの場を用意していくことがポイントです。

### 各分野で活躍するTEEP修了生

TEEP修了生を例に見ると、専任教員と非常勤講師、共同講座講師として以下のように活躍しています。

#### 専任教員

##### 【専門科目】

- a. 東海学園大学 経営学部 マーケティング領域 (職位:准教授)

#### 非常勤講師

##### 【専門科目】

- a. 日本福祉大学 福祉事業経営者によるケースメソッド教育 (職位:実務家教員)
- b. 中部大学 技術者倫理 (職位:非常勤講師)
- c. 育英大学 社会的・職業的自立II「テーマ:天職とは」 (職位:招聘講師)

##### 【教養科目】

- a. 名古屋市立大学 高等教育院 教養特色科目「キャリアデザイン実践編」 (職位:非常勤講師)

#### 共同講座

##### 【専門科目】

- a. 名古屋市立大学 経済学部 特別講義I・特別セミナーI (共同講座設置者&教育プログラムデュース)

この他、愛知県教育委員会主催のリカレントフォーラム(招聘講師)という公開シンポジウムに登壇した例や、生涯学習機関で災害時対応のPBL企画を検討した例もあります。従来なら所属機関以外で人に経験を伝えることのなかった実務家が、教育機関に関わりながらどんな役割を果たせるか、自分の経験をいかに形式知化して伝えるのかをTEEPを通じて認知できたことが、このような実績につながったといえます。

### 名市大で始まる「キャリアデザイン実践編」

上記の中から具体例として、名市大で2023年度から行われる「キャリアデザイン実践編」について説明します。全15コマの授業を通して、5人の実務家非常勤講師が人生の先輩として学生が描くロールモデルに資する実践知を伝えつつ、学生は自身のキャリアを言語化(デザイン)できるようにすることを狙っています。具体的には、「マルチサイクル・デザインとキャリア形成の事例研究」「仕事を通じた『一皮むけた経験』の事例研究」「キャリア開発シートの事例研究」の3つのテーマについて各回90分の講義を持ちます。

各回前半の45分はTEEPを通じて整理した講師自身の実例や経験を紹介します。中盤の20分は、それを聞いた学生がペアワークで疑問や質問事項を抽出し、それに対して講師が残りの25分で回答をしていきます。

### 「キャリアデザイン実践編」講義情報

授業の目的・目標	名古屋市立大学が中核校として推進する「進化型実務家教員養成プログラム(TEEP)」修了の実務家(ビジネスの第一線で活躍するビジネスパーソン)が、人生の先輩としてロールモデルになって実践知を伝えつつ、学生が自身のキャリアを現実的に言語化(デザイン)できるようにする講義。
ディプロマ・ポリシーとの関連	「学士基礎力」「使命感」「視点・視野」「姿勢・行動力」
キーワード	「企業・業界分析」「マルチサイクル・キャリア」「一皮むけた経験」「ロールモデル」「キャリア開発」
学修到達目標	① 「仕事上のキャリアとは何か」について理解し、知的熟達に向けて必要な仕事の「幅」と「深さ」、そして、仕事を通じた学びについて描くことができるようになる。 ② 「一皮むけた経験」について理解し、困難を乗り越えるからこそ獲得できる能力について説明できるようになる。 ③ 「キャリア開発シート」について理解し、ロールモデルを描き、理想とする成果、成果達成のためのパフォーマンス、パフォーマンスを実行するために必要な知識やスキルを設計できるようになる。

キャリアデザイン実践編のシラバス(一部)